

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	714C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：714C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

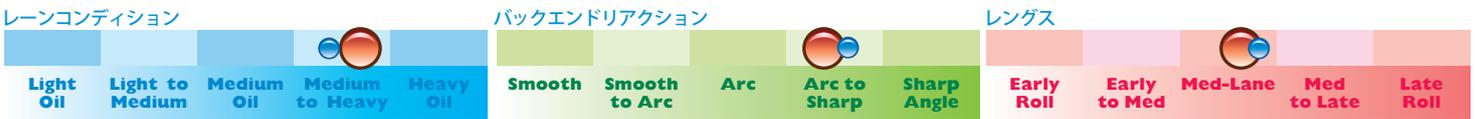
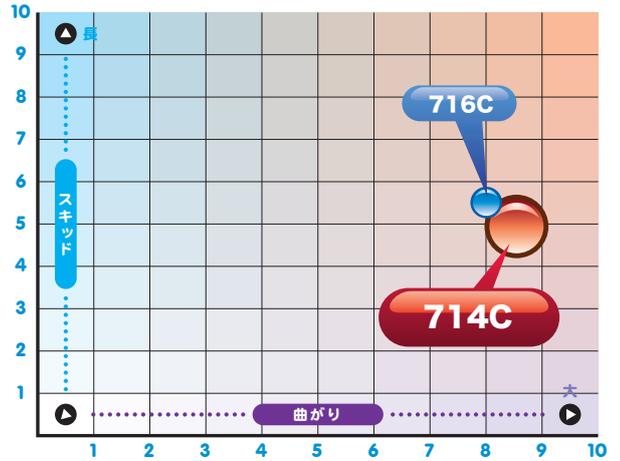
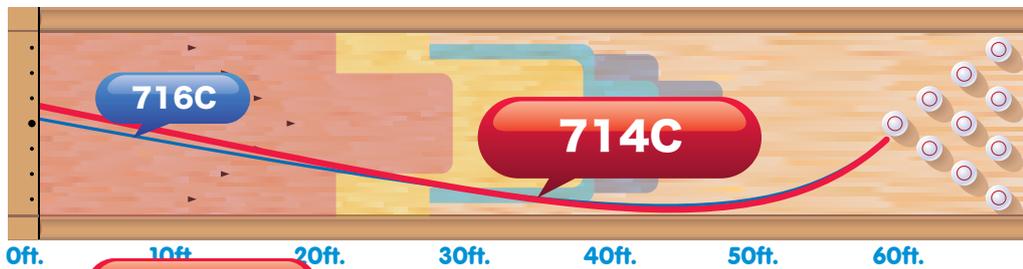
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：716C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

トラック社"7シリーズ"が一気に脚光を浴びたのは、壮絶な打ち合いでの勝負となった昨年の全日本女子プロボウリング選手権でのファイナル。両者が使用した716Cからでした。つづく716Tもマイケル・フェーガンの2012 USBCマスターズ優勝、関西オープン800シリーズ及びパーフェクトラッシュへとこの先も7シリーズが魅せるパフォーマンスは「勝負できるボール」として皆様に愛されることでしょう。

今回ご紹介する714CはModified Robotを心臓部に、#2000アブラロン加工の716Tとポリッシュ加工の716Cとのちょうど中間ぐらいの#4000アブラロンで仕上がっており、噛み過ぎないスキッドとしっかりと向きを変えるグリップ感のバランスが絶妙で、716Cと716Tの双方よりも幅広いコンディションで使用できるよう仕上がられています。私がこの714Cを気に入ったのは、ナンバーシリーズでレポートを組んだ場合、「716Cでややキャリアを感じてしまうが716Tだと手前が噛み過ぎる」場合、双方のパフォーマンスが離れているために間を埋めるボールがありませんでした。しかしこの714Cを入れることができれば、パフォーマンスがちょうど双方の中間ぐらいなので、手前で噛み過ぎることもなく、キャリアに流されるイメージも最小限に抑えることができます。私にはちょうどこれぐらいのパフォーマンスが曲がらない訳でもなく、曲がり過ぎない扱い易い領域であると感じていますし、粗過ぎない加工であるが故の反応の良いグリップ感も得られるところ、またしっかりと向きを変えてからポケットヒットするリアクションは、日本のマーケットで評価が高い性能分布であることもおススメする要素の一つでもあります。716Cと同じようにこの714Cも高い確率でトーナメントの優勝ボールとなるでしょう。

特記事項

716Tと716Cとのちょうど中間の性能分布で、ミディアムヘビーなコンディションでスキッドとキャッチのバランスが絶妙です。ナンバーシリーズファンには欠かせない、持っておかなければならないボールです。